

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)小牧市文津物流施設計画	階数	地上4階
建設地	愛知県小牧市大字文津字字子地内小牧市文津物流施設整備事業第6街区 348-100	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	400人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年10月 予定	評価の実施日	2023年8月28日
敷地面積	16,187 m <sup>2</sup>	作成者	多羅間 次郎
建築面積	10,961 m <sup>2</sup>	確認日	2023年8月18日
延床面積	32,991 m <sup>2</sup>	確認者	長岡 厚志



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値 100%  
②建築物の取組み 80%  
③上記+②以外の 80%  
④上記+ 80%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Qのスコア = 3.2**

**Q1 室内環境** **Q1のスコア = 3.3**

**Q2 サービス性能** **Q2のスコア = 3.7**

**Q3 室外環境(敷地内)** **Q3のスコア = 2.7**

**LR 環境負荷低減性** **LRのスコア = 3.6**

**LR1 エネルギー** **LR1のスコア = 4.4**

**LR2 資源・マテリアル** **LR2のスコア = 3.1**

**LR3 敷地外環境** **LR3のスコア = 3.2**

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<p>④地域材の活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)小牧市文津物流施設計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
									建物全体・共用部分	住居・宿泊部分
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.2</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.3</b>	
<b>1 音環境</b>									<b>3.2</b>	
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.2	0.15					3.2	
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40						
1 開口部遮音性能		0.4	3.0	0.40						
2 界壁遮音性能			3.0	0.60						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.40						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-						
1.3 吸音			3.0	-						
			4.0	0.20						
タイルカーペットと岩綿吸音板の2種										
<b>2 温熱環境</b>									<b>3.0</b>	
2.1 室温制御		0.3	3.0	0.35						
1 室温		0.5	3.0	0.50						
2 外皮性能		3.0	3.0	0.38						
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.25						
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.38						
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.20						
		3.0	3.0	0.30						
<b>3 光・視環境</b>									<b>3.1</b>	
3.1 昼光利用		0.2	3.1	0.25						
1 昼光率		0.3	3.0	0.30						
2 方位別開口		3.0	3.0	0.60						
3 昼光利用設備			3.0	0.40						
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30						
1 昼光制御		5.0	3.0	1.00						
3.3 照度		3.0	4.0	0.15						
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25						
事務所設定照度 500Lx以上確保										
<b>4 空気質環境</b>									<b>4.2</b>	
4.1 発生源対策		0.2	4.2	0.25						
1 化学汚染物質		0.5	5.0	0.50						
4.2 換気		3.0	5.0	1.00						
1 換気量		0.3	3.0	0.30						
2 自然換気性能		3.0	3.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.33						
4.3 運用管理		0.2	4.0	0.20						
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	3.0	0.50						
2 喫煙の制御		3.0	5.0	0.50						
建設内に喫煙所を計画して、喫煙エリアを区画。										
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>3.7</b>	
<b>1 機能性</b>									<b>3.5</b>	
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.5	0.40						
1 広さ・収納性		0.4	3.6	0.40						
2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	0.33						
3 バリアフリー計画	独自	3.0	5.0	0.33						
1.2 心理性・快適性		3.0	3.0	0.33						
1 広さ感・景観 (天井高)		0.3	3.0	0.30						
2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	0.33						
3 内装計画		3.0	3.0	0.33						
1.3 維持管理		0.3	4.0	0.30						
1 維持管理に配慮した設計		3.0	4.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保			4.0	0.50						
取組み項目については建築図に記載										
取組み項目については建築図に記載										
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>3.1</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.1	0.31						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48						
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20						
1 躯体材料の耐用年数		0.3	3.3	0.33						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		3.0	0.23						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			5.0	0.15						
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23						
2.4 信頼性		0.1	3.2	0.19						
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20						
3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20						
5 通信・情報設備		3.0	4.0	0.20						
引込端子盤は1F設置、電話、光等複数回線引込、ケーブルTV引込										

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>0.2</b>	<b>4.5</b>	0.29	-	-	-	<b>4.5</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>0.3</b>	<b>4.2</b>	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり									
2 空間の形状・自由さ									
1 階高6m以上				5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40		3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	<b>5.0</b>	0.31		3.0	-	
15,000N/m2のためレベル5									
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>0.3</b>	<b>4.4</b>	0.38				
1 空調配管の更新性				5.0	0.17				
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11				
4 通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11				
5 設備機器の更新性			3.0	5.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保			3.0	4.0	0.22				
将来空調用、冷媒貫通パネルの実装、ドレン管の実装									
OAフロア、システム天井、EPS扉									
OAフロア、システム天井、EPS扉									
設備バルコニーの扉は室外機の更新を考慮して親子扉									
倉庫空調の将来バックアップスペースの実装									
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.40		-	-	<b>2.7</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>独自③</b>	3.0	0.30				3.0
2 まちなみ・景観への配慮			<b>独自④</b>	3.0	0.40				3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>0.3</b>	<b>2.0</b>	0.30				<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>独自④</b>	2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>									<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40		-	-	<b>4.4</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.64	3.0	5.0	0.20		5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10			3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.57	3.0	5.0	0.50		5.0
<b>4 効率的運用</b>				<b>0.2</b>	<b>3.0</b>	0.20			<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00			
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50			
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング					3.0				
4.2 運用管理体制					3.0				
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30		-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>0.1</b>	<b>3.4</b>	0.15			<b>3.4</b>
1.1 節水				3.0	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33			
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>0.6</b>	<b>3.1</b>	0.63			<b>3.1</b>
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	3.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			<b>独自</b>	3.0	4.0	0.24			
躯体と仕上材の分別可能									
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				<b>0.2</b>	<b>3.0</b>	0.22			<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68			
1 消火剤					-				
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50			
3 冷媒				3.0	3.0	0.50			
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30		-	-	<b>3.2</b>
1 地球温暖化への配慮			<b>①</b>	ライフサイクルCO2排出率80%	3.8	0.33			3.8
2 地域環境への配慮				0.3	2.9	0.33			2.9
2.1 大気汚染防止					5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25			
1 雨水排水負荷低減			<b>独自</b>		3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25			
3 交通負荷抑制			<b>独自</b>		4.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25			
取組み項目については建築図に記載									
<b>3 周辺環境への配慮</b>				<b>0.3</b>	<b>3.1</b>	0.33			<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40			
1 騒音			<b>独自</b>		3.0	1.00			
2 振動			<b>独自</b>		-				
3 悪臭					-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40			
1 風害の抑制					3.0	0.70			
2 砂塵の抑制					3.0				
3 日照障害の抑制					3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					4.0	0.70			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30			
外灯下向き、地上サイン照明(敷地外に向けた光源は無し。)									

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいち版手引き

(仮称)小牧市文津物流施設計画

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.4</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$  の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)小牧市文津物流施設計画

計画上の配慮事項	
総合	西側の住宅街への圧迫感に配慮し建物高さを抑えることに配慮し、西側道路境界から本体建物までの後退距離を可能な限り確保した。また、大型車両の出入りをスムーズにするため、車輛軌跡を検討し、適切な乗り入れ幅員・位置を計画した。
Q1 室内環境	執務空間の居住性に配慮し、音・熱・光・空気感に配慮した。また、使用建材は全てF☆☆☆☆を採用し、空気汚染対策に配慮した。
Q2 サービス性能	レンタル比の最大化を図りつつ、従業員がストレスなく執務に従事できるよう各空間のゆとりに配慮した。 また、維持管理及び更新性に配慮し、メンテナンスが容易な建材を用いている。
Q3 室外環境(敷地内)	南側道路境界に沿って緑地帯を設け、周辺環境に配慮した。
LR1 エネルギー	注)「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 事務所エリアについては、高効率空調・LED照明といった高効率機器の採用 倉庫エリアについてもLED照明の計画として省エネ化を実現
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が分別可能な納まりを採用している。 節水型衛生器具の採用。
LR3 敷地外環境	西側の住宅街側の外壁は、照り返しによる光害に配慮し、落ち着いた色目の外壁材を採用した。また、夜間の車の出入りによる住宅街への光害に配慮し、西側道路境界に沿って遮光対策を講じた。
その他	特に無し。